

心の風景 —我が母校—

佐渡市立 畑野中学校

今年度5月で創立65年を迎えた畑野中学校の教育目標は「豊かな心で、たくましく、自分の人生を切り拓く生徒」です。

現在の生徒数は92名。その数は年々減少していますが、生徒会を中心に、地域との関わりを大切に活動を進めています。

その一つが「プルトップ収集」。プルトップとは缶ジュースなどの飲み口を開ける際に引くタブのことです。一つのプルトップの重さは約0.5g。車椅子と交換するには540kgのプルトップが必要で、その量は大きな麻袋で18袋！にもなります。平成17年度から始めたこの活動ですが、当初は生徒・保護者を中心とするものでした。

一台目の車椅子を地域の福祉施設に贈呈できたのは21年度のことです。5年の年月がかかりました。



平成23年度に2台目の車椅子を贈呈

しかし、その後、徐々に

活動の輪が広がり、地元商店や他の中学校、他地区の社会福祉協議会等からもプルトップが届けられるようになりました。時には、匿名で生徒玄関前にプルトップが入った袋を置いていく「タ

イガーマスク現象」も見られました。その結果、わずか2年の歳月で2台目の車椅子を贈呈することができました。現在は、25年度に3台目の車椅子を贈呈することを目標に頑張っています。

また、毎年夏に開催される「安寿天神祭り」では、地域の方を指導者としてお招きし、1年女子が中心となつて、地元の郷土芸能である「国仲音頭」を披露しています。他にも、部活動や佐渡学の推進など、数多くの場面で、地域の方からご支援・ご協力をいただいています。

「地域との関わり」と言いながら、そのほとんどはお世話になることばかりですが、関わりを通して、生徒は確実に「感謝する心」や「故郷を愛する心」を高めています。今後も地域がもつ大きな力をお借りしながら、地域を想い、地域に根ざす生徒を育む畑野中学校でありたいと思っています。



佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記

18

砂金の江と田んぼの江 (西三川編)

前号で国中平野に広がる「江」について紹介しましたが、今回は砂金採取のために使われた西三川の「江」(水路)を紹介します。

相川金銀山で採掘が行われるよりもはるか昔、西三川地域では、砂金が発見されていました。同じ「金」でも、金鉱石と砂金では採取の仕方が異なります。砂や泥の中に含まれている砂金は比重が重いので、その重さの違いを利用して水中で採取します。そのため、

たくさん水が必要でした。国中平野の江は、水を分けながら範囲を広げることが特徴でした。それに対して西三川の江は、水を遠くまで運ぶことが特徴です。当時、西三川の至る所で砂金の採取が行われていました。川のそばだけでなく山の中でも行われていたので、近くに水が無い場所もありました。そこで、人々は水を得るために遠くの水源から水を引く水路を作ったのです。西三川で最も長い水路は約9km以上もあり、国中平野の水路の2倍もの長さがあります。これほど遠くから

水を運んでくるためには、最先端の測量技術が必要でした。現在もこれらの水路跡は残っており、その一部は農業用水路に利用されています。

佐渡島が金の島だったからこそ、採掘のために高度な測量技術を用いた水路が作られ、それが現在も農業などに役立つています。



水を流して砂金を採る様子
【西三川砂金山稼場所図(佐渡市所蔵)】

◆教育委員会社会教育課 ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)
☎23 | 2101